



八鹿青溪



貫徹 慎独 創造

養父市立八鹿青溪中学校 校報
(令和7年3月11日) 第35号

卒業式特別号



学校教育目標「ふるさとを愛し 自らを高め 未来への道を切り拓く 八鹿青溪っ子の育成」
八鹿青溪中 HP

令和6年度卒業証書授与式学校長式辞

“78名の皆さん、卒業おめでとう。皆さんを見てると、お別れすることが実につらいというのが今の気持ちです。

3学期に入り、卒業生一人ひとりを校長室へ招いて中学校生活について尋ねました。すると、どの生徒も自らの3年間について明るく話をしてくれ、有意義な時間を過ごすことができました。

まず1年生の頃。たいへん緊張して臨んだ入学式だったが、頑張った大きな声で返事をしたこと、小さい学校の出身だったので、生徒数の多さに驚いたこと、友達ができるか不安だったが、班学習によって、いろいろな人と話ができるようになったことなどを、笑顔で語る生徒が居ました。いっぽう、勉強が急に難しくなったことや、感染症対策で黙食を続けたことを語る生徒も居ました。続いて2年生の頃。トライやる・ウィークでこども園に行き、幼児と楽しく触れ合ったこと、老人ホームに行き、ご高齢の方と談笑したこと、いずれの生徒も、貴重な経験だったと胸を張って語ってくれました。また、生徒会役員になり、「よし!頑張ろう」と決意を固めたことを語った生徒からは、リーダーを経験することへの喜びが伝わってきました。さらに、部活動についてですが、新人戦でいきなり好成績を挙げ、自信になったと語る生徒が多かったです。思い起こせば令和5年度の秋は、野球部、ソフトボール部、男子テニス部、女子卓球部が但馬制覇、女子テニス部、男子卓球部、バレーボール部が但馬第3位に輝いたことをはじめ、すべての部にとって「飛躍の秋」となりました。その後、八鹿青溪中学校の各部活動は快進撃を続け、最終的に、令和6年度夏の野球部全国大会出場という偉業達成につながっていきます。その礎をみんなで築いたのが、あの秋だったのかもしれないと私は振り返っています。



最後に3年生の思い出。やはり、修学旅行は皆さんに強い印象として残っていました。思う存分遊んだディズニーランド、動物園や博物館を巡った上野公園、新幹線でのカードゲームなどについて語る生徒が居る中で、スカイツリーで集合時刻に遅れてしまったこと、ホテルで寝坊しそうになったことなど、今となれば思い出ですと苦笑いを浮かべながら語ってくれる生徒が居ました。さらに、体育祭。猛暑の中、1日も休まずに練習したこと、最高学年として下級生を引っ張っていくことがたいへんだったが、反面、嬉しかったこと、運動が苦手で、もともと楽しみではなかったが、最後なのがむしろに頑張ったこと、などを語る生徒が居ました。

以上が、皆さんから聞いた主な思い出話ですが、今年の3年生は、普段の何気ない日常について聞かせてくれる生徒がたいへん多く、体育館で夢中になったドッジボール、良い点をとると嬉しかった定期テスト、休み時間の楽しいおしゃべりなどに加えて、教室の外に目をやればそこに鹿が居たこと、前校長先生が亀の赤ちゃんをたくさん拾ってこられたことなど、思わず吹き出してしまいそうになる話もありました。いっぽう、些細なことで喧嘩をしたかったが、今は仲直りした大切な友だちがいることを語る生徒もおり、中学校生活のいろいろな場面が、皆さんの心に深く刻まれていることが分かりました。



卒業生の皆さん、この学校で得た数々の思い出を胸に、次なる舞台でさらに飛躍してください。皆さんは、私たち八鹿青溪中学校の教職員にとって、大切な教え子であったことをここに伝えます。

保護者の皆様、本日は、まことにおめでとうございます。これまで本校にお寄せいただいたご厚情に対し、心からお礼を申し上げます。現代社会は変化が激しく、予測困難な時代となっていますが、これからの3年間は、子どもたちが自分の将来を決める極めて重要な時間です。保護者の皆様におかれましては、子どもの思いを大切にしながらも、親としての意見もしっかりと伝え、養父市、但馬、兵庫県、そして、日本の将来を背負う力強い「大人」を育ててくださいますようご期待申し上げます。

この卒業式には、養父市教育委員会より植木拓氏様にご臨席をいただきましたこと心より感謝申し上げます。今後とも変わらぬご指導の程お願い申し上げます。

卒業生との面談では、将来の夢についても尋ねました。多くの生徒から、こんな言葉を聞きましたので最後に紹介します。

「いつも、頑張って仕事をしている親の姿を見てきました。自分も親のように笑顔で、かつ強い芯を持ち、社会に貢献する大人になりたいと思っています。」

それでは、卒業生の未来が、明るく素晴らしいものになることを祈念し、式辞といたします。

令和7年3月11日

養父市立八鹿青溪中学校長 岩浅克友希



3年間の中学校生活を表す漢字

卒業生との面談では、「自身の中学校生活を漢字で表したらどうなりますか?」という質問もしました。以下に卒業生から挙げた漢字を紹介します。

【卒業生から挙げた漢字】

「積」「成」「部」「充」「瞬」「笑」「壁」「難」
「変」「短」「楽」「友」「不」「会」「忙」「創」
「大」「宝」「学」「頑」「熱」「結」「最」「全」
「濃」「密」「進」「贈」「山」「穂」「新」「壁」
「協」「感」「勉」「尽」「力」「思」「幸」「守」



令和4年度入学式

それぞれの生徒が、自身の挙げた漢字について、その理由を教えてくださいました。「いろいろな積み重ねがあったから」「成長をすることができたから」「充実していたから」「笑いの絶えない生活だったから」「とても楽しく過ごしたから」などという説明がある中で、ややマイナスなイメージを抱かせるような漢字があるように思います。しかしながら、よく話を聞いてみると実はそんなことはなく、「困難に対しても、精一杯頑張ったから」「壁があったものの、それを乗り越えたから」「変化が激しかったが、しっかりと対応できたから」「不十分な部分を取り返そうと頑張ったから」などとその理由はすべてが前向きであり、むしろ努力の足跡を垣間見ることができました。つまり、「ピンチをチャンス」に変えた生徒も少なくなかったということになります。あらためて、卒業おめでとうございます。私たち教員も負けずに頑張ります。